



発行：NPO 法人シャローム事務局

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3
TEL / FAX 024-567-5322Web <http://www.nposhalom.net>
Email info@nposhalom.net

発行責任者：大竹静子

NPO 法人シャローム総会開催のお知らせ

五月二十五日(土)
総会開催予定!

今年度の総会は、役員変更等もなく、通常の令和五年度の事業報告と令和六年度の事業計画案が議題となります。五月二十五日開催を予定しています。正会員の方には開催案内を郵送しますので、出欠を確認の上ご返送をお願いします。

今年度は、元旦早々の能登半島地震があり、三・一一の東日本大震災・原発事故の記憶が改めて思い返される機会となりました。地震という自然災害は人々の生活現場を直撃し、社会生活のためのインフラを一瞬にして破壊してしまっています。道路の分断、家屋の崩壊、集落の孤立化、すべてが生命の危機へと直結します。一月以降も今年度は全国各地で大きな地震が続いています。地震大国の日本に生きる私たちは、これらの被害を最小限にしておくために、災害が起きることを前提とした対策を地域全体で日頃から考えていくことが大切です。

能登半島地震への支援として、「ひまわりプロジェクト」では栽培協力者様を紹介頂き、ひまわりの種を送ることであります。災害後の被災

者への生活再建に向けた支援、被災者に寄り添う心のケア等の課題がこれから表面化してくると思われれます。ひまわりプロジェクトに参加している多くの皆様が被災地を直接支援することには限界がありますが、ひまわりを通して現場の様子に思いを寄せ、全国に広がるネットワークの中で、支え合っていることを感じられるだけでも大きな支えとなるものと考えています。

それは、私たちが東日本大震災の中で経験したのもでもあります。被災地の現場では、東日本大震災で被災者支援を展開してきた地域共生創造財団、グリーンコープ共同体、生活クラブ連合会の皆様から炊き出しや支援物資の配布を行っており、現場からの最新情報をもとに「ひまわりプロジェクト」としてできる支援を検討していきます。

福島でも今年もひまわりの栽培が始まります。福島市の郊外にある児童養護施設「青葉学園」の畑をお借りして地域の皆様とともに実施して四年目となります。これまでコロナ禍と重なりイベントは

できませんでしたが、昨年の秋に初めて収穫感謝祭(芋煮会)を行うことができました。

青葉学園では、老朽化した本館の建替に合わせ地域の交流拠点となる交流ホールも完成し、この収穫感謝祭が地域の皆様への建物のお披露目となりました。子どもたち、地元老人会、障がい者施設、ボランティアの皆様、地域の様々な人たちが一緒に種を植え、収穫をみんなで喜ぶことができる収穫感謝祭は、疎遠になりがちな地域内の世代間交流、福祉団体と地域を支える各種団体との交流を自然の内に深める場となりました。

防災上の避難施設としての役割も担う交流ホールが、ひまわり栽培を縁に地域の人々が集い、地域のサロンとして定着していくことを願っています。「ひまわりプロジェクト」の地域の再生復活を担う役割は、全国に益々広がって行くことが予想されます。

二〇二四年も「ひまわりプロジェクト」を、共生社会を目指すシンボル事業としてみなさんとともに進めていきたいと思っておりますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

(T・O)

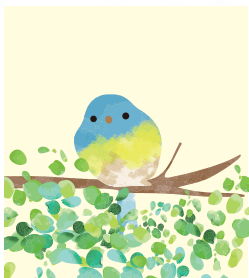
桜のメモ帳

桜の花が満開。去年は三月の末には咲き始めたので、十日ぐらい送られての開花となった。遅れると待ち遠しさも重なり、愛おしさも倍加する。冬の厳しさを耐えてきた人間への自然からの贈り物。

花は、私たちの心を和ませ、その花を愛でる人同士を優しく繋いでくれる。同じ世界に感動するとき、人々は親しみを覚え仲間となる。

春は桜、夏はひまわり、秋は菊、自然の営みは四季を創り、その季節の中に、それを象徴するように花を咲かせる。その周りでは花に誘われて小鳥や虫が飛び交う。春の日差しは、すべての生き物の命を輝かせ、共生社会を体現する。ひまわりの一生に付き合いつながりながら過ごすひまわりプロジェクト。それは、一粒の種が地に落ちて大地に根を張り、大輪の花を咲かせ、そして実を付けるまでの営みに寄り添うことから始まる。一粒の種それは共生社会を求める人間への自然からの贈り物。

(T・O)



ひまわり通信 2024

種まきの季節です

◆種まきの季節

四月の二十四節気は「清明」(四日)と「穀雨」(十九日)です。清明とは「清浄明潔(せいじょうめいけつ)」を略したもので、万物が清らかで生き生きとしている様子を表しています。天地が清々しい空気となり、生命の輝きで満ちあふれる季節です。穀雨とは百穀の実りをもたらす春の雨のことです。百穀とは、あらゆる穀物を意味しています。ちょうど、菜の花が咲く時期でもあるため、この頃の長雨のことを菜種梅雨(なたねつゆ)と呼ぶこともあります。

また、燕(つばめ)はこの時期になると南方から海を渡り、日本へやってくることから、人々が季節を知るための指標でした。燕の飛来は本格的な春の始動と、農耕をはじめめる合図だったのです。

◆自植え栽培のコツ

ひまわりの原産地は北アメリカ西部だと考えられています。基本的に植物を育てるには、その植物の原産地の気候に合わせるとうちやすくなりますが、ひまわりは強い植物ですので、最初の生育が安定すれば安心して育てることができます。

発芽したひまわりが根元から切られたようになってくる場合があります。芽が出てすぐは、根切り虫に注意が必要です。対策としては、ペットボトルを輪切りにし、種を中心に二センチぐらい差し込んでおくと、根切り虫が侵入できなくなります。

それから、生育初期は周りの草に負けやすいので、ひまわりの周囲二十〜三十センチに生えている草は抜いた方が良いでしょう。また、植えるところにどんな草が生えているかで土の状態を知ることができます。ハコベ、オオイヌノフグリ、ヒメノオドリコソウなどが生える畑は肥沃で中性に近く作物が育てやすく、スギナ、スイバなどが生えている農地は酸性が強くやせているなどです。ただ草が生えたらから抜くだけでなく、このような点も考えながらやってみると面白いと思います。

さらに、抜いた草は草マルチとして活用できます。(マルチとは、有機物やビニールな

どで土の表面を覆う層です。地温の調節・雑草抑制・乾燥防止・病気予防などの効果が得られます。)草マルチをすることで保水性が上がり、その草が枯れることで微生物や菌の餌になります。草の抑制効果もあるのですが、たくさん草があればやってみてください。草は雑草と言われ何かと嫌われがちですが、霜や乾燥による害や、土の流失を防いでくれます。また雨による跳ね返りを防ぐので、病気の予防効果もあります。ただ地温が上から下へ伝わり、風通しがあまり良くない時は少し刈ってあげると良いと思います。

◆ポット栽培のコツ

ひまわりの種をポットに蒔かれた場合は心配は少ないと思います。水やり過ぎで徒長(茎や枝が必要以上に間延びする)してしまふことがあります。それにより、虫に対する抵抗性や環境の変化に弱くなりますので、土の表面が乾いたら水をあげるようにすると良いと思います。

また、ひまわりの根は直根(太く真っすぐ下に伸びる根)なので、ポットで育て過ぎてしまうと、根が巻き過ぎるので

よくありません。本葉が四五枚になったら、土の形を崩さないで根が傷つかないように植えつけると良いでしょう。

◆お便りお待ちしております

今年の福島でのひまわりの種植えは五月十一日です。ひまわり通信では皆様の地域のひまわりの様子も紹介していきたいと思えます。生長記録や交流の様子などを送っていただけると幸いです。それぞれの地域がひまわりで満たされ、明るく照らされることを願っております。

(ひまわりPJ 後藤)



▲ 青葉学園となり、野菜畑に植えたムスカリとチューリップ

冊子配布しております



今年も三月三十一日付で「NPO法人と共生社会」という冊子を発行いたしました。興味のある方にはお分け致しますので事務局までご連絡ください。

ひまわりPJのSNS・ブログ

Instagram



@shalomhimawari

ひまわりブログ



shalom-net.jp/?cat=16

活動報告や協力者様からのお便りなどを紹介!フォローお願いします!



【チャンネル登録をお願いします】
ひまわりプロジェクト関連動画、過去の地元学講座などをご覧いただけます。



シャローム
YouTube

YouTube チャンネル名
NPO 法人シャローム

チャンネル登録と動画更新通知をONにすると、最新のアップロード動画が見やすくなります。



URL

<https://www.youtube.com/@nposhalom>



教養講座 地元学を考える

第三百三十八回「地元学を考える」
(二〇二四年二月十七日開催)

「シャロームと私」

講師 大竹静子氏

NPO法人シャロームの三代目代表・大竹静子氏の、「障がいを持つ人も持たない人もともに生きる地域づくり」を目指し始められたVG(ボランティアグループ)シャロームからの四十四年間の歴史について聴講させて頂きました。

VGシャロームをつくるきっかけは、教育実習で「重度的障害者に話を伝え教える為に叩いて教える指導をする」光景を目にし、人として受け入れられない不条理な現実に疑問を抱いたことです。その後結婚され人の親となり、誰もが自分らしく生きる事を求めて、一人ではできない事も、仲間とならできることが二倍三倍になると、障がい者支援のボランティア活動を開始されました。

を目指して、「来てください！」運動を、行政の委託を受けて十二年間活動展開。シャッター街が復活した。

○障がい者コミュニケーションサロン「まちなか夢工房」を情報発信地として、地元学も開始
○東日本大震災・原発事故での、シャロームとしての教訓整理

◎人は、支え合い、分かち合うことで生きている・・・「共生原理」
◎人は一人では生きられない・・・「共生社会」
◎「命」を守り合うことからすべては始まる。

○ひまわりプロジェクトの展開
○優しさの連鎖は、思いやりを育て、人々を喜びに導く。すべての人を取り残さない、孤立を生まない共生社会のシンボル事業で、全国四百三十件の地域間交流を展開。

それぞれ地域での取り組みの連鎖が共生社会を作る。「いつもあなたを見ています」「けっしてあなたを忘れない」。NPO法人として「無関心が社会と障害者の間に壁をつくることや、障害者のことを正しく理解してもらおう事の必要性を感じ続けながら長年社会福祉法人活動を展開してきた」ことから、令和元年「毎

日社会福祉顕彰」を受彰されました。最後に、長年にわたってボランティア活動を一緒にされてきた方々の紹介がありました。その活動の熱意に感動でした。

今回の福祉研究会の中で、私たちは「障害者」ではない。「障害者」を「障がい者」に書くこととの点で、違いに躓きました。

社会的問題ととらえる時は「障害者?」、人や人の状態を表す場合は「障がい?」。肝心なのは、どう表記するのではなく、当事者の気持ちをどれだけ理解できるかが重要。障害者とは「社会の障害」でも「身体に障害を持つ者」でもなく、「社会との関わりの中で障害に直面している者」という意味であり、障害を減らして行く事が大事。と言われる方がいました。

今回も継続は力なりと感じると共に、繋がりでうまれる強い力、共生社会の必要性について痛感しました。有難うございました。(高橋 ヒロ子)

講座に参加された高橋さんから感想文を寄稿していただきました。誠にありがとうございました。

第三百二十九回「地元学を考える」
(二〇二四年三月三日開催)

「森里川海はいのちの基盤」

講師 魚住道郎氏

今回の地元学では、日本有機農業研究会理事長・有機農業生産者の魚住道郎氏を講師を迎え、学ばせていただきました。

まず水保病の話がありました。化学工場の新日本窒素肥料(株)後のチッソ(株)から有機水銀が流され、その汚染された海産物を食べることによる中毒性の神経系疾患など健康被害がもたらされたのが水保病です。そして、ここで作られた化学肥料は、犠牲を伴ったものでありました。私たちはこのことを教訓にしていかなければならないと強く思いました。

また、農業の観点から見てみると、稲作では冷害によって、いもち病が発生することがあります。その時に使われていたのが、有機塩素系のDDT(ジクロロジフェニルトリクロロエタン)やBHC(ベンゼンヘキサクロリド)でした。これらには有機水銀が含まれていて、一九七〇年代から話題になっていました。魚住氏はこのままいつたら日本はどうなってしまうのか危惧され、

ご自分の課題として向き合っていかなければならないと話されていました。

戦後日本は欧米の農業を取り入れ、化学肥料、農薬を使うようになりました。虫を殺し、菌を遠ざけるこの農法は、本当に正しい農法なのでしょうか。

私たちは動植物、微生物のいのちを食することで、生きています。魚住氏は一九四〇年に出版された「農業聖典」の書籍に出会い、有機農業を始められました。この本はアルバート・ハワード氏によって書かれ、世界の有機農業運動の基礎を築き、バイブルとして、今も広く読み継がれています。

また、生産者と消費者は一方方向の関係ではなく、双方向性のある有機的な関係が必要だということです。宮城県で力キ養殖をされている方が、山に広葉樹を植える活動をされています。一見すると関係のない事のように思われますが、山から川を伝って栄養が流れ、力キが成長します。森里川海はすべてつながっています。まさに命の循環が行われています。

また、ネオニコチノイド、遺伝子組み換え作物は、海外では規制の対象になっていますが、日本では緩和されています。表面的には良いことをうたっていますが、危険性にはふれられていません。人口

減少の一端は精子と卵子の異常が原因でもあります。日本の農業量は世界で一位二位を競うようになってしまっています。今この状況を問い正さなければ、子供たちに明るい未来は無くなってしまいます。作物の種はほとんどが海外産、自給率は約三十%、農家は高齢化、災害の激甚化、輸入食品の買い負け、戦争による影響、課題は山積しています。経済の問題、生産性の問題にすり替えすることなく、安全な農畜産物に切り替えていかなければなりません。命の基盤を守るために私たちは声をあげていくと同時に、自分ができることを考え、行動することが必要だと感じました。

(T.G)



活動のご報告

2024年2月26日～4月25日

- 3/1・3/8・リアン 相談会・ピアカウンセリング
3/15・3/22 (まちなか夢工房)
- 3月3日 第239回 地元学講座
「森里川海はいのちの基盤」
魚住 道郎氏
- 3月5日 〈ひまわり〉生活クラブ様「復興支援学習会」参加 (Zoom)
- 3月10日 夢工房〈販売〉まちの駅&どまいち春の物産フェア (新潟県)
- 3月14日 憩〈販売〉にじいろ day (福島市役所)
- 3月29日 夢工房〈イベント〉パン屋さんになりきろう
- 4/5・4/12・リアン 相談会・ピアカウンセリング
4/19 (まちなか夢工房)
- 4/11・4/25 憩〈販売〉にじいろ day (福島市役所)
- 4月13日 夢工房〈イベント〉飾り巻寿司をつくろう
- 4月20日 第240回 地元学講座
「精神障がいてなかに」
佐藤 仁子氏
- 4月20日 憩〈ひまわり〉ひまわり種唐箕がけ

活動予定

2024年4月26日～5月25日

- 4月26日 リアン 相談会・ピアカウンセリング
(まちなか夢工房)
- 4月27日 憩〈販売〉メーデー (福島市)
- 5/1～5/7 楽膳〈販売〉SPA2024 展示販売会 (大丸東京店)
- 5/2～5/23 楽膳〈販売〉民藝フェア (有隣堂アトレ恵比寿店)
- 5月3日 夢工房〈販売〉パン&ベイク祭り (道の駅ふくしま)
- 5月5日 夢工房〈販売〉まちなかテーマパーク
(まちなか広場)
- 5/9・5/23 憩〈販売〉にじいろ day (福島市役所)
- 5/10・5/17・リアン 相談会・ピアカウンセリング
5/24 (まちなか夢工房)
- 5月11日 〈ひまわり〉福島ひまわり種まき・祈願祭
(青葉学園)
- 5月18日 第241回 地元学講座
「命 (いのち)」
鈴木 恵子氏
- 5月19日 夢工房〈販売〉小さな村のマルシェ
(大玉村あだたらの里直売所)
- 5/20～5/30 夢工房〈実習受入〉ふくしま支援学校
- 5月25日 NPO 法人シャローム総会
夢工房〈販売〉みずいろ公園 (本宮市)

教養講座 地元学を考へる 第二百四十一回 予告

「命 (いのち)」

〈講師〉鈴木 恵子氏
(星降る古里ひろの・代表)

(一財) 民族衣装文化普及協会特定認定講師

〈日時〉2024年5月18日 (土) 13:30～15:00

〈場所〉まちなか夢工房 2階

〈参加費〉500円

〈講演内容〉

東日本震災・原発事故時に避難された方々の実話などを紙芝居にし、防災・減災の研究者たちと協力をしながら作品の伝承活動をしています。その作品から上演いたします。皆さまも、3.11を機にたくさん経験をされたことと思います。故郷を追われた方々も多く福島に住んでおられると思います。故郷での豊かないのちの営み・暮らしがあったと思います。紙芝居を通し、それぞれが大切なものに会えることができれば幸いです。

*五月十五日 (水) までにお申込みください。後日、シャロームホームページよりYouTube配信いたします。

空き缶回収の御礼

ご支援・ご協力をありがとうございました

シャロームは「障がいを持つ人も持たない人も共に生きる地域づくり」を目指して具体的な活動を展開しています。その趣旨に賛同された方々から、様々なご支援をいただいております。2023年度の「アルミ缶の回収」にご協力をいただきました皆様へ感謝申し上げます。これからの暑い夏、飲み終えた空き缶回収にぜひご協力ください。

〈福島市〉 旅館山根荘様、斎藤実佳様

〈二本松市〉 渡辺医院様 〈大玉村〉 佐々木早苗様

ありがとう
ございます